事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 2 年　7月　20日　　事業所名　児童発達支援事業所　Ohana

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	4	・時間差での療育計画を立てる事でスペースの確保をしている。	・晴れた日は屋外活動をプログラムに合わせて計画したり、居室の広さで無理の無い様集団での音楽療法は発達別や年齢別のグルーピングして調整している。 ・療育内容により広さの調整をしている。
	2	職員の配置数は適切である	5	1		・配置数は満たされているが、さらに充実した支援を行うために増員を考えている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	1	・子ども達が動線が分かり易いように、絵カードを使っての表示をしている ・療育室内に大きな窓があったりすると視覚的情報が多く子ども達が注意散漫になるので、ロールスクリーンをつけ対応している。	・子どもにより何が視覚的刺激になるのかを把握し室内環境を整えていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			・今回は初回あるが、今後も公開していく予定
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4		・外部評価がなかなか出来ていないので、保護者からの自己評価表等の評価結果を検討し改善につなげていく
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6			
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		・職員間で支援計画を確認して支援している。 ・言語聴覚士、理学療法士の特別支援計画、音楽療法士のアセスメント等を職員全員が共有できるようにしている。	・今後も職員間での情報共有を行っていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		・職員間で情報共有を行い子ども達に必要な療育を提供している。グループ活動の週案はグループの子ども達の構成を見ながら必要な療育を考えている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		・身体・認知・コミュニケーションの遊び等、子ども一人ひとりの状況に見合いつつ、偏りがないよう五感を使った遊びを提供している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	6		・音楽療法・グループ活動についてはこどもの状態に応じて個別・集団のどちらが必要かを考慮して行っています。 ・言語療法、理学療法は個別で行っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	・グループ活動や音楽療法についてはその日の活動計画を作成し、共有できるよう努めています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	2		・振り返りの時間を少しでも設けられるように職員配置や送迎時間の工夫をしていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6			
関係機関や保護者との連	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	1		
	23	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			※該当なし	
	24	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
連携関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	2	・昨年は併設のマザーヒルズ保育園との合同でクリスマス会を実施した。	・今後も併設の高齢者施設等とも活動の機会を設けていきたい。
	29	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	1		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		・連絡帳を通して連絡している。また、園のお迎えの保護者様に家庭での様子や気になる事を尋ねている。	・今後も続けていく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	1	5		
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6		・新しい施設のため利用児が少なく父母の会はまだない。希望があれば今後考えていきたい。また、保護者同士の連携を望まない意見もあるため。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5	・法人の行事との連携をしている。	・法人の他事業所と一緒に行事を実施したり、今後利用児が増え単独での行事が出来る様に考えていく
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	4	・ロッカや誰でも目に付く場所に設置しておく	・防災マニュアル・感染症マニュアルは出来ており、緊急時マニュアルは作成中（立地や地域の状況を把握しながら作成していく）
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	3		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		・法人内での定期的な各事業所からの事例報告を周知している	・ヒヤリハット報告書をこまめに作成する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	1	・声かけの工夫や必要な環境を整備したり、アイテムを上手に使っている。	・随時必要な時は職員に声をかけ話し合い、グレーゾーンの怖さを伝える。 ・外部研修で学んだことを施設に帰りフィードバックする。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	3		・身体的な拘束は考えていない。拘束はしないような対策を考えていきたい。

〇この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。